

モーリタニア月例報告
(2024年2月)

2024年3月
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【外政】

- 2月 8日 モーリタニア・スペイン関係
(サンチェス西首相のモーリタニア訪問他)
- 2月 8日 モーリタニア外政
(西首相及び欧州委員会委員長の当地訪問共同プレス声明)
- 2月 9日 EU・モーリタニア関係
(欧州委員会委員長のモーリタニア訪問)
- 2月17日 2024年AU議長国就任
- 2月16日～18日 モーリタニア外政
(第37回アフリカ首脳会議の-marginでの各国とのバイ首脳
会談等)
- 2月18日 AU首脳会議第37回通常総会 (ガズワニ大統領開会セッション
スピーチ)
- 2月19日 AU首脳会議第37回通常総会 (ガズワニ大統領閉会セッション
スピーチ)

【経済協力】

- 2月15日 令和5年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償協力
「ティヤレット市エッサラマ保健センター整備計画」
(署名式の実施)
- 2月15日 令和5年度対モーリタニア草の根
「アエレンバー市アエレゴレール小学校整備計画」及び
「アエレンバー市アエレンバー村給水塔整備計画」
(署名式の実施)

【治安】

- 2月16日 モーリタニア治安情勢 (テロリストの情報)

【その他】

2月22日 天皇誕生日に際してのガズワニ大統領発天皇陛下宛の祝意
2月23日 令和5年度天皇誕生日祝賀レセプションの開催

【外政】

●モーリタニア・スペイン関係（サンチェス西首相のモーリタニア訪問他）

（2月9日付、当地独立系メディア「サハラ・メディア」）

1. 2月8日、ペドロ・サンチェス・スペイン首相は、「ガズワニ大統領との会談の最後に、モーリタニアはこの地域で安全と民主主義を促進するために地域における重要で参考となる役割を担っている」と述べた。

2. 「自分（サンチェス首相）は会談でガズワニ大統領に、モーリタニアはサヘル地域の安全保障と民主主義の面で基本的かつ参考となる役割を果たしていると伝えた。両国は多くの共通の目標を共有している。特にテロとの闘い及び定期的かつ安全な移民の流れを確保するという我々の意志はそうだと述べた。

3. スペイン首相は、自国政府とモーリタニアのカウンターパートは「課題への対処の成功を保証する統合戦略を通じて、EUと同様に協力する」と結論付けた。

4. 会談後、ガズワニ大統領、サンチェス首相フォン・デア・ライエン委員長との共同記者会見において、ガズワニ大統領は「モーリタニアはスペイン及びEUとのパートナーシップのもと、同地域の微妙な治安情勢と不法移民との闘いによって引き起こされた移民の流れに責任を負うことで、高い代償を払っている」と述べた。

5. ガズワニ大統領は、スペイン及びEUとのパートナーシップのもと、不法移民との闘いにおいて、同国が果たすべき役割を十分に果たすという決意を強調した。

6. また「モーリタニアはしばしば通過国とみなされるが、今や目的地となる

国になっている。今日、さまざまな国籍の数十万人の移民と数万人の難民をキャンプで受け入れ、彼らに安全と安定を提供している」とし、「監視、国境管理、治安部隊の動員、基本的なサービスの強化に多大な努力を払っている」と付け加えた。

7. ガズワニ大統領は、今回の会議では、その他不法移民と地域の安定性に関する課題が議論されたと述べ、国際的な安全保障・地域の安定性について、モーリタニアはガザでの出来事について必要かつ不可欠な即時停戦及び二国家解決のための国際的な行動の必要性を強調し、その立場を改めて表明した。

8. サヘル地域における治安の危機的状況と不安定さについて、テロリズムへの対処とこの分野での進展を支援するため、全てのパートナーの連携を継続することに同意し、サヘル諸国は集団的にしか安定性と安全性、そして持続可能な発展を確保できないという確信を表明した。

●モーリタニア外交（西首相及び欧州委員会委員長の当地訪問：共同プレス声明）
（2月8日付、当地政府系メディアAMI）

1 フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長及びサンチェス・スペイン首相は、2024年2月8日にヌアクショットを共同訪問し、ガズワニ・モーリタニア大統領と会談した。

2 この会談において、三首脳はモーリタニア及びEUを結ぶ戦略的關係や、スペイン及びモーリタニアの友好的で強固な二国間關係について深い議論を行った。

3 三首脳は、政治、経済、商業、文化、協力及び安全保障の幅広い分野をカバーするこれらの關係の深さと多様性を強調した。

4 これらの關係の広さと重要性を認識し、三首脳は特に、建設的な協議、相互尊重、信賴の精神、透明性、絶え間ない効率性の追求及びコミットメントの尊重といった、彼らの協力を導くべき本質的な原則を強調した。

5 また、三首脳は、人權の尊重、平和及び友愛といった、三者に共通する普遍的な価値觀の重視も表明した。

6 三首脳はまた、利害の一致、価値観の共有及び民主主義を共に重視していることを原動力として、モーリタニア及びEUのパートナーシップがますます強化されていることを満足の意をもって強調した。

7 この文脈において、両欧州首脳は、安全保障上の大きな課題に直面するサブリージョンの環境における安定のベクトルとしてのモーリタニアの役割を歓迎した。

8 この点に関し、両欧州首脳は、モーリタニアがサブリージョンにおける中心かつ積極的な役割を強化し、包摂的かつ持続可能な開発の枠組みの中で多くの安全保障上及び経済上の課題に効果的に対処する能力を強化するために、必要な支援を提供することにコミットした。

9 三首脳は、強固で多様な互惠関係の構築におけるこの新たな段階を歓迎した。この新たなダイナミズムは、共通の関心分野、特に再生可能エネルギー分野での交流を強化することを目的としており、世界が脱炭素経済へと移行しつつある現在、生態学的にクリーンな解決策を見据えたものである。

10 この点に関して、三首脳は、EU及びモーリタニアの間のグリーン水素分野における実りある協力の基礎を形成するものである、昨年10月にブリュッセルで署名された「チーム・ヨーロッパ」イニシアティブを歓迎した。

11 この弾みの中で、欧州企業のミッションが3月にモーリタニアを訪問し、投資機会を探る予定である。これは、2月8日にヌアクショットで開催されたグリーン水素に関する円卓会議での意見交換に続くものである。

12 グリーン水素分野の効率的な発展のためには、ヌアクショット及びヌアディブを結ぶ新たな道路インフラの整備が急務であることから、フォン・デア・ライエン委員長は、グローバル・ゲートウェイの枠組みの中でこのプロジェクトを支援することへのEUの強い関心を強調した。

13 また、モーリタニア政府が社会経済発展に必要な電力を生産するために行っている多大な努力も、EUとの協力、特に農村電化プログラムを通じて支援されている。

14 EUはまた、サブリージョナル電力ネットワーク・プラットフォームの重

要なリンクである、ヌアクショット・ネマ間の高圧線建設に対する資金支援の可能性も検討している。

15 デジタル・インフラ、保健、漁業及び農業分野への EU、欧州投資銀行及びスペインからの支援は歓迎された。スペインは、モーリタニアにおける新たな開発プロジェクトへの共同ファイナンスの可能性について、多国間機関と検討することができる。スペインはまた、モーリタニアへの投資を希望する企業へのファイナンスを促進することにコミットする。

16 モーリタニア及びスペインの長期的な協力関係を強化するため、両国間の二国間協力新枠組み協定が署名された。

17 安全保障の分野では、ガズワニ・モーリタニア大統領が、G5 サヘルの理想と目標の妥当性を主張しつつ、サヘル地域とアフリカ全般のみならず、それを超えた地域の安全保障情勢とその影響についての分析を発表した。

18 ガズワニ大統領は、平和と安定の構築は本質的に集団的な努力であると確信し、サヘルにおける安全と開発のために国際的な動員を継続する必要性を強調した。

19 三首脳は、すべての開発努力を危険にさらす不安定性の増大について、同じ懸念を共有している。スペイン首相及び欧州委員会委員長は、サヘル地域の安定を確保するための努力においてモーリタニアが中心的な役割を果たしていることを歓迎した。両欧州首脳はまた、平和及び安全保障の分野においてモーリタニアとの協力を強化することを決定した。

20 フォン・デア・ライエン委員長は、モーリタニアの国防・治安部隊に対する EU の支援、特にモーリタニアの新しい対テロ大隊の装備を再確認した。同時に、G5 サヘル防衛大学の活動継続を確保するための共同努力に貢献する意思を表明した。

21 欧州首脳は、モーリタニアによる難民受け入れの努力を歓迎するとともに、このことが現地の資源や住民に圧力をかけていることを認めた。モーリタニアは現在、15 万人以上の避難民を受け入れており、移民の流れは止まらない。そのため三首脳は、特に難民のケアや受け入れコミュニティへの支援など、この状況がもたらす課題に見合った国際社会からの支援が緊急に必要であることを

想起した。

2 2 フォン・デア・ライエン委員長はまた、モーリタニアの期待に応え、難民及び受入コミュニティへの支援を強化すると発表した。スペイン首相は、2024年に難民への人道支援を倍増させる意向を表明した。

2 3 三首脳はまた、欧州への非正規移民が増加し、あらゆる種類の人命の損失や苦しみ、虐待につながっていることへの懸念を表明した。三首脳は、移民、庇護申請者及び難民の基本的権利が保護され尊重されるよう留意しつつ、密輸・人身売買ネットワークを解体し、非正規移民と闘うために協力を強化することにコミットした。この文脈において、スペインとモーリタニアはすでに循環型移民プログラムに取り組んでおり、パイロット・プロジェクトが開発される予定である。同じくこの文脈において、三首脳は、モーリタニアの治安部隊が移民の違法輸送と闘うのを支援することの重要性を強調した。

2 4 欧州委員会委員長は、EU及びモーリタニア間の構造的な移民パートナーシップの枠組みの中で、この協力を強化することにコミットした。モーリタニアが移民管理、強制移住、安全保障及び開発といった課題に対応できるよう、EUは資金支援を強化し、欧州機関 FRONTEX の経験を活用する意向である。

2 5 そのために、モーリタニア政府及び欧州委員会の関連部局は、対話を強化するために 2023 年 12 月に開始された作業を継続し、各当事者の目的と必要な措置を考慮した移民に関するパートナーシップの確立を目指すよう指示される。

●EU・モーリタニア関係（欧州委員会委員長のモーリタニア訪問）
（2月9日付、当地独立系メディア「アル・アフバール」）

1. 2月9日、ウアズラ・フォン・デア・ライエンEU委員長は、モーリタニアにおける支援プロジェクトのパッケージを発表した。又アクションにて、モハメド・ウルド・ガズワニ大統領及びペドロ・サンチェス・スペイン首相とともに共同記者会見を行ったフォン・デア・ライエン委員長は、EUとモーリタニアのパートナーシップが「優れた共同作業」によって「成長し、発展している」と述べた。

2. また、モーリタニアにおける「グリーン水素開発のためのスペイン及びフランスとの大規模なプログラム」を戦略的分野として位置付け、「モーリタニアに

雇用を創出し、投資をもたらすであろう本プロジェクトには、世界で最も風と太陽に恵まれたモーリタニア北部に設備と技術を導入する必要がある。」と述べた。

3. さらに、EUは「ヌアクショット-ヌアディブ間的高速道路プロジェクトの開発を支援する」ほか、「モーリタニアの人々の生活にとって重要なプロジェクトである、ヌアクショット-ネマ間の1400キロメートルの高圧送電線及び安定した電力アクセスと迅速なエネルギー転換を実現するためのキファの太陽光発電所を支援する。」と述べた。

4. フォン・デア・ライエン委員長は、モーリタニアのデジタル移行を支援するために、将来的なデータセンターの開設や2本目の海底ケーブルの共同出資なども行うことを強調した。

5. 安全保障分野において、フォン・デア・ライエン委員長は、欧州のパートナーは安全保障の分野でモーリタニアとのパートナーシップを強化する」と述べ、加えて「今年は安全保障のために2000万ユーロ以上、合計4000万ユーロの支援の増額を予定している。」と述べた。「サヘル情勢は非常に不安定」であり、モーリタニアはこの地域の安定にとって重要な役割を果たしていると述べ、「テロと戦い、マリとの東部国境を守るためにモーリタニア人部隊を装備し、防衛大学で訓練を実施する。」ことを約束した。

6. 移民対策の分野では、「移民管理、難民への人道的支援、雇用・技能・起業への投資のために、ここから年末までに2億1000万ユーロ以上を拠出する。」と述べた。

● 2024年AU議長国就任

(2月18日付、当地政府系メディアAMI)

1. 17日、ガズワニ大統領は、モーリタニアを代表して、アディスアベバにおいて2024年のアフリカ連合議長に選出された。

2. モーリタニア外務省は、ガズワニ大統領は北アフリカの国々により、彼らの名においてこの崇高な使命を果たすために選ばれ、またアフリカ大陸の国々が満場一致でガズワニ大統領を支持したことは、アフリカの統一と進歩に対するガズワニ大統領のコミットメントが認められ、また国際舞台でのモーリタニアの地位を強化するためのガズワニ大統領の洞察力に富んだビジョンとたゆま

ぬ努力の結果、モーリタニア外交の成功とダイナミズムが認められた証である
と考える。

3. この繊細な地域的・国際的状況におけるA Uのリーダーシップにおいて、
ガズワニ大統領は、A U委員会やその様々な機関と緊密に協力しながら、アフ
リカにおける協力、持続可能な開発、平和を促進し、より繁栄し、先進的で安
全な未来を求めるアフリカ国民の願望を達成するために、その豊富な経験と卓
越した知恵を発揮させることを可能にするだろう。

●モーリタニア外政（第37回アフリカ首脳会議の-marginでの各国とのバイ
会談（2月18日付、当地複数メディア）

1. リビア

2月16日、ガズワニ大統領は、メンフィ・リビア首脳評議会議長と会談
し、様々な分野における両国の二国間関係、第37回アフリカ首脳会議の議
題、その他多くの問題について話し合った。ガズワニ大統領は、リビアの安定
を達成するために首脳評議会議長が採った措置及びA Uの支援を受けて同評議
会が主導する国民和解プロセスへの支持を確認した。

2. エチオピア

2月18日、ガズワニ大統領は、アビィ・エチオピア首相と会談し、二国間
協力関係の強化及び発展、A U諸国間の協力レベルの向上、そして共通の関心
事であるいくつかの地域的・国際的な諸問題について話し合った。

3. コンゴ（共）

2月18日、ガズワニ大統領は、サス・ンゲソ・コンゴ（共）大統領と会談
し、サス・ンゲソ大統領からA U議長国就任への温かい祝辞を述べられるとと
もに、二国間協力関係の強化及び発展、A U諸国間の協力レベルの向上、そし
て共通の関心事である地域的・国際的な諸問題について話し合った。

4. 故ジュリウス・ニエレレ大統領銅像の除幕式

（1）ガズワニ大統領は、サミア・タンザニア大統領、アビィ・エチオピア首
相、南部アフリカ開発共同体（SADC）の各国首脳、ファキA U委員会委員
長とともに、故ジュリウス・ニエレレ・タンザニア大統領の銅像の除幕式を執
り行った。

（2）この銅像は、1964年にタンガニーカ及びザンジバルを統合してタンザ

ニア連邦共和国とし、アフリカ大陸の解放運動を支援する先駆的な役割を果たした故タンザニア大統領を称えるというA Uの決定を受けて建立された。

●A U首脳会議第37回通常総会（ガズワニ大統領開会セッションスピーチ）
（2月18日付、当地独立系メディア「CRIDEM」）

1. 冒頭

（1）まずはじめに、アフリカの美しい首都であるエチオピアで開催される様々な首脳会議に際し、エチオピア連邦共和国政府及び国民が常に友好的な歓迎と歓待を寄せてくださっていることに、皆様の代表として、謝意を表したい。

（2）アディスアベバは、1963年の設立総会における故モフタール・ウルド・ダダ大統領が「我々は全世界、特にアフリカの人々の注目の的であり、これらの人々に対して我々が犯し得る最大の罪は、失敗することである」と演説の中で明確に示されているように、建国の父たちのビジョンと強い決意から生まれた、連合と統合を目指す我々の共通の意志の最初の制度的表現の発祥地である。

（3）彼は、歴史的にも文化的にもアフリカ大陸の南と北をつなぐ存在である自国が、この新生アフリカの大建築の柱のひとつとなるべきであると固く確信し、アフリカの共同行動を促進する必要性を信じていた。親愛なる同僚の皆様、皆様が自分に寄せてくださった信頼に対する感謝と深い感謝の念を表明したい。特に、兄弟であり友人である北アフリカの指導者の皆様は、先ほど皆様がおっしゃったように、我々の連合に奉仕するこの崇高な任務を遂行するために自分を選んでくださったことを光栄に思う。この榮譽に感謝し、深い感動を覚える一方で、自分は、特にこの大陸と世界全体にとって重要かつ微妙な時期に、この任務が重大な責任を伴うことを十分に自覚している。皆さんと常に相談し、緊密に連携しながら、この責任を引き受けるつもりである。

（4）また、アザリ・コモロ大統領の卓越した指導力、そしてアフリカ諸国民の願望達成に向けた我々の連合を後押しする称賛に値する努力に祝意を表するとともに、ファキA U委員会委員長及びそのチーム、さらにはA Uの他の機関が、そのパフォーマンス、効率性、有効性のレベルを高めるために果たしている建設的な役割を高く評価する。

2. 21世紀のためのアフリカの教育

（1）「建国の父」が目指したものは、要するに、我々が「アジェンダ2063」で共に築き上げたものであり、それは我々が望むアフリカの計画、すなわち「平和的に統治され、市民が主導し、世界の舞台でダイナミックな力を発揮

する、統合され繁栄したアフリカ」に他ならない。

(2) この究極の目標を達成するための計画や戦略の成功の可能性は、人材への効果的な投資、科学技術に開かれた包括的で質の高い教育の実現にかかっていることはよく知られている。

(3) 今年のテーマとして「21世紀のためのアフリカの教育：アフリカにおける包括的、持続可能、質の高い、適切な教育へのアクセスを増やすための強靱な教育システムの構築」が採択されたことは、特に適切な選択である。教育は、あらゆる持続可能な開発行動の出発点であり、安全保障と安定の強力な決定要因であり、まともな雇用の展望を開き、失業、貧困、不安の連鎖を減らすスキルを身につけ、発展させる手段である。

(4) アフリカの人口の約62%を占める若者に焦点を当てたい。若者の損失は大陸の損失であり、教育を受けられない若者は失われた若者である。

(5) 何百万人ものアフリカの若者たちが、基本的な技能も持たず、自国では失業し、様々な不規則な移住ルートで死のボートに押し込められ、まともな生活への展望を阻まれ、祖国の建設に積極的に参加できないでいる光景は悲痛であり、教育制度の変革が緊急に必要であることを示している。

(6) 我々の大陸は、持続可能な開発目標の目標4の達成に遅れをとっている。その原因は、教育システムへのアクセス不足、高い中途退学率、教育・訓練の質の欠如、そして我々が直面する様々な課題に対応するための不十分さにある。子どもたちの17%以上が小学校に入学できていないことや、中等教育段階にある若者の75%がこの段階で技能を習得できていないことは、決して容認できることではない。

(7) 政府、市民社会、各分野のアクターなど、我々全員が、意識を高め、人的、技術的、財政的資源を動員して、すべての娘や息子に継続的な教育、訓練、技能開発の機会を提供し、アフリカ女性の創造的なエネルギーを引き出し、彼女たちに力を与え、様々な開発プロセスのリーダーシップへの効果的な参加を強化する教育革命をもたらすために、一層の努力を払わなければならない。

3. アジェンダ2063

(1) 加盟国、地域経済共同体、A Uの各機関の中期開発計画策定の基礎となる「アジェンダ2063」実施の一環として、最初の10か年計画が採択されてから10年が経過した。この10年間、地域や国際情勢は決して好ましいものではなかった。健康、環境、経済、安全保障の危機が相次ぎ、しばしば同時に発生したことで、アフリカ大陸が直面する課題の規模が悪化し、その悪影響によって、アジェンダ2063の実施に期待される進展の達成を妨げたり、遅

らせたりする大きな障害となった。

(2) しかし、アフリカ大陸自由貿易地域 (A f C F T A) プロセスの進展など、いくつかの分野では有望な進展が見られ、第一段階が成功裏に完了し、物品貿易、サービス貿易、紛争解決に関する議定書が発効した。また、投資、知的財産権、競争政策に関する議定書の第2フェーズの交渉が受け入れ可能なペースで進んでおり、また、A f C F T A 電子関税集、原産地規則ガイド、貿易イニシアティブなどの始動も本格化している。

(3) また、デジタル、道路、電力インフラ、37か国が単一大陸航空市場 (CONCOM) システムに参加した空域自由化の分野でも、アフリカのピアレビューメカニズム、アフリカ開発のための新パートナーシップ (NEPAD)、制度改革に加えて、心強い進展があった。

4. 国際機関におけるアフリカのプレゼンス

(1) また、G20の常任理事国入りなど、国際機関におけるアフリカ大陸のプレゼンスも強化されている。

(2) 国連安保理常任理事国入りを果たし、国際連合におけるわが大陸の存在感を高めるためには、国際連合を改革することが急務である。皆さまに代わり、また皆さまのご支援をいただきながら、自分は、より柔軟で持続可能かつ迅速な資金アクセスを可能にし、債務問題を悪化させない形で、開発のための資金調達に関する新たな協定を構築するため、多国間協力システムや公的開発支援機関の改革と同様に、こうした様々な路線での取り組みを強化するよう努める。

(3) 自分は、アフリカ開発銀行がこの文脈で行っている貴重な努力を歓迎するのみである。

(4) 自分はまた、我々の大陸が効果的な発言力と影響力を持つことができるような、後発開発途上国にとってよりバランスの取れた、公平で包摂的な多国間国際システムを促進するために、皆さんと協力していく。

(5) 現在の国際システムは、我々の大陸にある国々の問題や権利にしばしば見られるように、小国や後発開発途上国を犠牲にして、程度の差こそあれ、数多くの不正や措置がとられている。

(6) ガザ地区で起きている殺戮と破壊、国際的な正当性と人権の原則の侵害、そして即時停戦の実現に必要な重みを与えようとしない国際社会の姿勢を見るだけで、この国際システムを改革する必要性に気づくだろう。援助を提供し、国際的正当性の関連決議に従って、東エルサレムを首都とする独立国家を樹立するパレスチナ人の固有の権利を保証する、包括的かつ永続的な解決策の確立を進めることである。

(7) 自分は、不正義を拒絶し、正義の大義を擁護し、特にパレスチナの大義に関して国際法と国際人道法を遵守するA Uの立場を誇りに思う。

5. アフリカが抱える課題

(1) 特定の分野ではあちこちで進展が見られるものの、アジェンダ2063の目的である7つの抱負を実現するための我々の努力は、依然として遅々として進まず、足踏み状態にさえある。

(2) そこで、2024年から2034年までの10か年計画の枠組みの中で、我々のアフリカ大陸のいくつかのレベルにおける危機と状況の悪化を解決するために、あらゆる努力を傾注しなければならない。6億人以上のアフリカの人々が、21世紀になってもまだ電氣を利用できていない。

(3) 我々のアフリカ大陸は、世界の極度の貧困の50%以上が存在し、世界の耕作可能地の25%を占め、世界の農業生産の10%しか貢献していない。また、ロシア・ウクライナ危機が明らかにしたように、効率的で強力かつ持続可能な食料システムなくして主権はありえない。

(4) 要するに、我々の大陸は奇妙なパラドックスに直面しているのである。それは、若い人的資源、戦略的立地、無尽蔵の天然資源など、安全保障、平和、繁栄のオアシスとしての資質を備えた巨大な潜在力と、貧困と脆弱性にしばしば見舞われる具体的な現実との間の大きな格差に表れている。

(5) このパラドックスを克服するために、我々はあらゆるエネルギーと資源を総動員し、第2次10か年計画2024-2034の厳格かつ効果的な実施を確保しなければならない。

(6) 各国代表が提出する報告書は、アフリカ大陸自由貿易圏の設立プロセスの完了、第2版のインフラプログラムであるPIDA2の実施、農業能力構築プロジェクト及び大陸電力市場プロジェクトに関する分析と有益な勧告を含んでおり、第2次10か年計画の実施に強力な後押しとなるだろう。

(7) A Uの諸機関の制度・組織改革の実施は、この計画の実施に不可欠なテコとなる。この第2次10か年計画の実施の有効性は、その様々な構成要素の実施に民間部門を強力かつ効果的に関与させることができるかどうかにかかっていることは言うまでもない。

6. 地域の治安及び安定

(1) 我々の大陸が直面する最大の課題のひとつは、緊張、武力紛争、テロ集団の蔓延であり、これらは治安と安定を破壊し、社会基盤を解体し、開発努力を妨げ、人々の生活環境を著しく損なうことによって、常に国家主体を脅かしている。

(2) サヘル地域は、このような脅威に最もさらされている地域のひとつであり、これを防ぐために、我々は一致団結し、効果的な協調を図りながら協力しなければならない。

(3) 我々の大陸におけるテロリズム、内紛、戦争による人命の損失、インフラや経済・社会システムの破壊は、安全と平和のための戦いを最優先課題としている。

(4) 我々は、アフリカの平和と安全保障のアーキテクチャー及び大陸早期警戒システム、アフリカ待機軍などの様々な支援メカニズムを発展させ、地域経済共同体内及び地域経済共同体間の調整及び協力のレベルを向上させることによって、集団的な大陸安全保障を確立するために協力しなければならない。

(5) 我々は、安全保障上の課題を個々に克服することはできないし、その要因となっている開発や社会的課題に取り組むこともできない。安全保障、経済、社会、知的側面を考慮した包括的な大陸戦略を構築する必要がある。

(6) 我々が望むアフリカとは、既成の解決策を待つのではなく、対話、調整、創造性を通じて、直面する課題に応じた解決策を導き出し、自ら主導権を握って紛争解決に努めるアフリカである。

(7) 様々な関係者とのパートナーシップを拡大し、多様化する必要があるのは事実だが、競争や仲間割れのための劇場とならないような形で、我々はしばしば経済的、社会的、そして何よりも安全保障上の危機や激変に見舞われている。

(8) そして、大陸の安全保障シーンを暗くし、さらに複雑にしている要因のひとつに、多くの国々の制度的、社会的、政治的安定に影響を及ぼしている最近の反憲法的な動きがある。

(9) 我々の連合が、1999年のアルジェリア、2000年のロメ、2022年のアクラ、2022年のマラボなど、その法的メカニズムや決定、多くの宣言を通じて、様々な形態の反憲法的な変更に対抗するために大きな努力を払ってきたことに疑いの余地はない。

(10) 反憲法的な変更のエスカレートは、民主主義に対する前例のない侵害であり、大陸における制度の安定に対する深刻な脅威である。したがって、このことをためらうことなく指摘する必要がある。

(11) この点で、我々は、アフリカの問題はアフリカ自身によって解決されるべきであるという原則に従い、外部の干渉を受けることなく、困難を克服し、相違点に対する適切な解決策を見出すための協調行動を常に優先させながら、紛争を解決するための我々自身のメカニズムをより活用しなければならない。

(12) この現実には、我々一人ひとりが法の支配の原則を強化し、安定性と透

明性の枠組みの中で平和的かつ調和のとれた権力移譲を保証する真の民主主義を確立するために努力することが求められる。

(13) そのためには、政治生活を平穩化し、対話とコンセンサスを通じて社会的相違や民族的対立を克服し、社会的、経済的、政治的ガバナンス全般のレベルを向上させる必要がある。

結び

(1) 今日、我々に必要なのは、社会生活と政治生活に平穩と平和を取り戻す新たな方式を開発するために、古代アフリカの知恵から、対話と協議の精神から、そして様々な問題の管理と運営における妥協的解決策の絶え間ない探求からインスピレーションを得ることである。

(2) 経済的、社会的、政治的ガバナンスを改善する必要があるのと同様に、環境的ガバナンスを改善する必要もある。なぜなら、温室効果ガス排出量に対する大陸からの貢献度は低いにもかかわらず、結果として生じる気候変動とその影響（洪水、砂漠化、干ばつ、大陸及び海洋生態系のバランスの悪化など）の影響を最も受けるのは我々だからである。従って、我々は、環境影響に対する市民の強靱性を強化し、公平かつ段階的で持続可能な環境・エネルギー転換に向けた取り組みを強化しなければならない。

(3) 我々の大陸は、グリーン水素の潜在的な可能性を大いに秘めている。我々が協調を強め、パートナーシップを確立し、グリーン水素の広範な利用を通じて大陸のエネルギー革命を達成するために必要な財源を動員することができれば、クリーンエネルギーへの普遍的なアクセスという課題に対応し、大陸の産業転換のペースを加速させることができるだろう。

(4) 自分は、この分野における我々の大陸の巨大な潜在能力を、アジェンダ2063の目標達成に大きく貢献する具体的な開発プロジェクトに転換するプロセスに効果的に貢献するために、皆様とともに努力していく。

(5) 団結と共同の努力こそが、今日の国際的・大陸的状况に対処するための唯一の要素である。我々の共通の価値観、運命共同体としての自覚、我々が直面している課題の規模、そして我々が追求している目標の崇高な性質が、このことを要求しているのだ。

(6) 「統合され、繁栄し、平和で、自らの息子や娘たちによって導かれ、国際舞台でダイナミックな力を発揮する」アフリカの台頭は、アフリカ大陸の現在を取り巻く特殊な状況を考えれば、困難なことのように思えるかもしれない。しかし我々のような、巨大な潜在力、若い人材、野心的で前向きな展望に恵まれ、団結した民族にとってはそうではない。

(7) それゆえ、我々は皆、AUの制度的発展を追求しなければならない。そ

こから我々の未来を担い、我々の問題を管理し、我々の統合と団結を強化し、アジェンダ2063に示された我々国民の正当な願望を実現するのである。

(8) 我々の大陸が直面する様々な課題に対処するため、一層の団結と努力を呼びかけるとともに、自分は、この第37回AU首脳会議の開会を宣言し、その活動の成功を祈念する。

● AU首脳会議第37回通常総会（ガズワニ大統領閉会セッションスピーチ）
（2月19日付、当地政府系メディアAMI）

1. 我々は共に、アジェンダ2063の実施の一環として第1次10か年計画の実施から最も重要な教訓を導き出し、第2次10か年計画を採択した。これには、今年のテーマである21世紀に適応した質の高い教育及び訓練への普遍的なアクセスを確保すること及び治安・安定を回復し、国内紛争を平和的に解決するための努力が含まれる。

2. また、国際舞台での大陸の存在感を強化するため、安全保障理事会の常任理事国入りを目指し、国際金融システムの改革及び、より公平で公正な多国間システムの促進にも重点を置く。

3. さらに、大陸自由貿易地域及びそれに関連するインフラ計画の効果的な実施にも注力する。

4. 我々は50年にわたるアジェンダの最初の10年が終わったばかりである。望むようなペースでは発展していないかもしれないが、前進はしている。自分は、皆さまのご支援と尽力をいただきながら、特に優先課題及び行動指針において、ともに大きな前進を遂げるための努力を惜しまないつもりであるので、ご安心いただきたい。

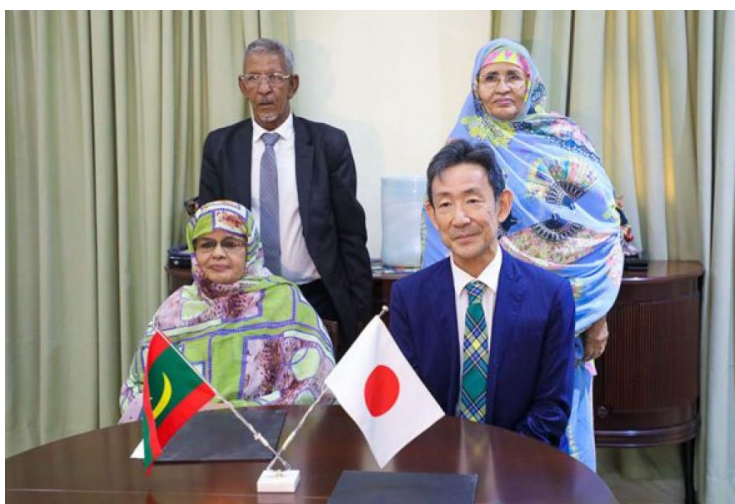
5. 我々全員が望むアフリカとは、安全、平和、人権のアフリカであり、グッド・ガバナンス及び持続可能な開発のアフリカである。

6. 国際舞台で主権を持ち、ダイナミックなアフリカを構築することは、他の選択肢の中から選ぶことでも、実現不可能な希望でもなく、むしろ生存のために必要なことであり、運命の問題である。自国が直面する多次元的な問題や課題に対する解決、達成には、我々の組織・連合の枠組みの中で協力する以外に選択肢も手段もない。

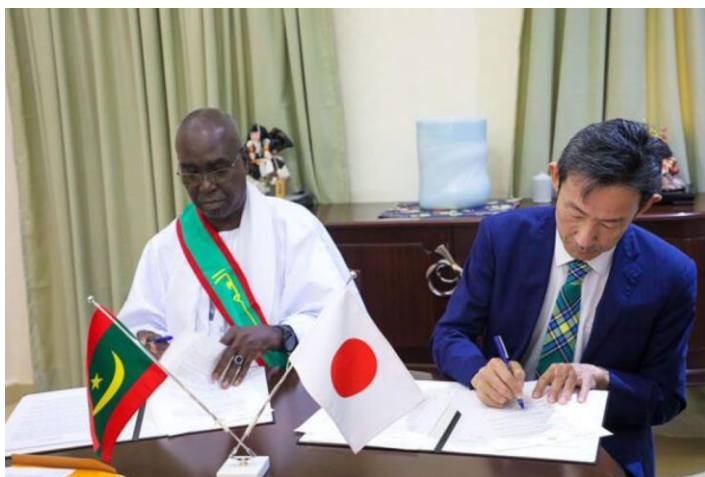
7. 第37回アフリカ連合首脳通常総会の閉会を宣言するにあたり、より一層の団結、補完性、統合を改めて呼びかける。

【経済協力】

●2月15日、内田大使は、令和5年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償協力「ティヤレット市エッサラーマ保健センター整備計画」の贈与契約書（G/C）の署名式を、被供与団体である「エイズ防止協会」のファティメトゥ・モハメッド・レミン・マハム（Ms. Fatimetou Mohamed Lemine MAHAM）代表との間で執り行った。



●2月15日、内田大使は、令和5年度対モーリタニア草の根・人間の安全保障無償協力「アエレンバー市アエレゴレール小学校整備計画」及び「アエレンバー市アエレンバー村給水塔整備計画」の贈与契約書（G/C）の署名式を、被供与団体である「アエレンバー市役所」のムッサ・ハマディ・シィ（Mr. Moussa Hamady SY）市長との間で執り行った。



【治安】

●モーリタニア治安情勢（テロリストの情報）

（2月16日付、当地独立系メディア「Al Akhbar」（アラビア語版）及び「Cridem」（フランス語版））

1 「Al Akhbar」

（1）モーリタニアの首都ヌアクショットの第6軍管区の電報で、イスラム国（ISIL）分子が国内に存在することを警告している。ワッツアップのコミュニティで広く共有されたこの電報によれば、これは信頼できる情報源からの確かな情報で、同人は現在、単独で差し迫ったテロ行為を計画しており、軍の宿舎か政府施設を標的とする可能性がある。

（2）第6軍管区司令官は、特別かつ適切な方法でこのISIL分子を追跡していることを確認しており、あらゆる予防措置を講じつつ、人的・物的安全を確保するために警戒を強化するよう求めた。

（3）ある情報源によると、容疑者は木曜日（2月15日）に逮捕されたという。

2 「Cridem」

（1）報道筋によると、テロ組織ISILに関するテロ容疑者がモーリタニア当局に逮捕された。逮捕の経緯や場所についての詳細は明らかにされていないものの、当局は単独犯と思われるこの人物の行方を2月15日以降、懸命に追っていたという。

（2）治安当局は、テロリストが入国する可能性を警告していた。この逮捕について、関係当局は公式な反応を示していない。

【その他】

●天皇誕生日に際してのガズワニ大統領発天皇陛下宛の祝意

（2月22日付当地政府系メディアAMI）

「陛下、

日本国民が陛下の64歳の誕生日をお祝いするにあたり、私個人、政府及びモーリタニア・イスラム共和国国民の名の下に、心からお喜び申し上げ、陛下のご健勝をお祈り申し上げるとともに、友人たる日本国民に対し、更なる発展と繁栄を祈願します。

敬具

モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ」

●令和5年度天皇誕生日祝賀レセプションの開催

1 2月23日夜、内田大使はメルズーグ外相、ラム漁業・海洋経済大臣他、多数の要人の列席を得て、公邸にて本レセプションを開催した

2 本レセプションでは、大臣一行到着後、一行と暫し懇談した後に式典を開始し、両国国歌の演奏に続いて内田大使からアラビア語及び仏語を交えてスピーチを行った。

